

中山道「御嶽宿」景観修景プロジェクト 岐阜県御嵩町

～賑わいと誇りの持てるまちづくりをめざして～

みたけ地域活性化委員会 / 御嵩町

手づくり郷土賞

講評

一般部門

大賞部門

資料集

江戸と京都を結ぶ「中山道」49番目の宿場町として設置された、地域固有の資産である「御嶽宿」について保存活用をはかっていくため、地域住民を中心に、『御嶽宿地域再生構想（平成20年）』、『御嶽宿地域景観等整備指針（平成21年）』が策定されました。これらを受けて、「みたけ地域活性化委員」が主体となって、平成20年より、手作りの景観修景プロジェクトをスタートさせました。

「みたけ地域活性化委員会」は、御嵩町と協働で「御嶽宿」の賑わいづくりを行っており、主にイベント事業と景観づくり事業を実施しています。

イベント事業としては、既存のウォーキング大会を「御嶽宿」に特化したり、「ささゆりハイキング」の実施など、これまで十分に知られていなかった地域の魅力を多くの方々に知っていただく機会づくりを継続して行っています。

景観づくり事業については、平成20年に御嶽宿内にあるゴミ集積箱を修景することをまず第一歩とし、翌21年には名鉄「御嵩駅」駅舎等の修景、翌々年の平成22年には、地元高校との協働により「御嶽宿灯籠」を設置しました。さらに、平成23年にはソーラー発電による「御嶽宿行燈」を製作するなど活動が着実に拡がりを見せています。

今では、修景活動も定着しつつあり、地元住民をはじめ、観光協会、商工会、地元高校生、大学などの参画を得て、幅広い年代層を巻き込みながら活動を展開しています。

今後も、一つ一つの景観要素を丁寧に変えていくことで、景観づくりを通じた御嶽宿地域の活性化をはかり、御嶽宿沿いの各家庭それぞれが景観づくりに協力しながら「御嶽宿」という歴史を理解し、町民全体が「誇り」と「自信」を持って暮らしていけるような地域に広げていくため、手づくりの修景活動を展開させていきます。



ゴミ箱の修景作業からスタート



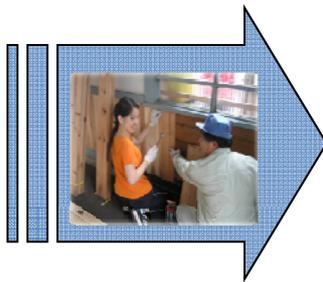
杉板貼り
(この後、塗装作業へ)



御嶽宿に架かる「唐沢橋」の欄干もローラと刷毛で塗り替え



宿場町を演出する「御嶽宿灯籠」



住民自らの手で2日ばかりで完成した名鉄「御嵩駅」。御嶽宿の玄関口として、白と茶色を基調とした駅舎へ生まれ変わりました。

- ◆所在地
岐阜県可児郡御嵩町地内
- ◆活動内容
御嶽宿の賑わいづくり（イベントと景観づくり）、ささゆりハイキング（6月）中山道往来～なかせんどうろおーく～（11月）、御嶽宿のひなまつり（2月～3月）など
- ◆活動主体名
みたけ地域活性化委員会 (<http://www.town.mitake.gifu.jp>)
- ◆連絡先
みたけ地域活性化委員会事務局（御嵩町役場まちづくり課内）
0574-67-2111（内線2235）

